

六花酒造 新天地への移転から1年

新ブランド「杜來」に手ごたえ



高坂執行役員にインタビュー

〈六花酒造の歴史と移転の経緯〉

六花酒造の始まりは1972年(昭和47年)。1719年(享保4年)創業の「高嶋屋酒造」をはじめ、「白梅酒造」「川村酒造店」

青森県弘前市の岩木山の麓に位置する六花酒造。かつては「じよっぱり」を軸に展開していたが、2023年の移転を機に、コーポレートマークを刷新し、新ブランド「杜來(とらい)」とともに新たなスタートを切った。

様々なこだわりを詰めた新たな環境で1年が経ち、製造体制や方向性もより明確になり、県内から県外への発信も強化している。移転の経緯から新天地でのこだわり、今後の展望について高坂雄太郎執行役員経営企画室室長に話を聞いた。

(聞き手 柴田明子)

が集結し、美しく清らかに舞う雪の花(雪の結晶)にちなんで名づけられたという。

翌73年(昭和48年)、1万坪超の広大な敷地に工場が建設され、以降、弘前市の津軽地方で

「頑固者」をあらわす方言を冠した「じよっぱり」を代表銘柄に据え存在感を高めた。

高坂雄太郎執行役員経営企画室室長によると、「当時は清酒市場が右肩上がり

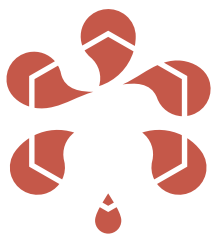
で大量生産が求められ「じよっぱり」も市場と共に

拡大していった。それから50年、時代は変化し焼酎やウイスキーハイボールなど飲み手の嗜好も多様化。清

酒業界では、全体数が縮小しながらも、純米酒などの特定名称酒が伸長するという構造変化が見られる中

で、六花酒造にも老朽化した設備更新のタイミングとともにビジネスモデルを考へる転機が訪れたという。そして2023年7月、

良質な水と、より良い醸造環境をもとめ、岩木山や世界自然遺産の白神山にほど近い自然豊かな土地へ移転が完了した。



六花酒造
ROKKA
SHUZO

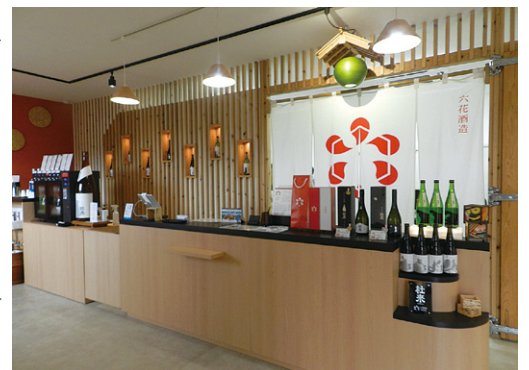
また、一番下の花びらを隠すと「六」に、下三枚の花びらを隠すと「山」に見えるというユ

〈新コーポレートマークへの想い〉

移転のタイミングで新たなコーポレートマークを制定したが、これには様々な想いが込められているとい

う。「六花酒造の名前の由来である、雪の結晶」を六つの花びらとその中を通る六角形で表している。花びらの真ん中に六角形を通したが、これには、これまでの常識の枠を超えた挑戦を

している、という意匠を込めた」と高坂室長。



に、これまでに津軽の風土を活かした醸造をスタート。「杜氏が切望する醸造設備をすべて導入し、より高品質な日本酒を醸造できる環境を整備した」という。

ニークな仕掛けも。「400年、500年と続く酒蔵でありたいという未来へ向けた想いが込められている」(同氏)。

〈「造り」のこだわり〉

新天地では岩木山系の伏流水に加え、近隣でとれた県内産の酒造好適米を中心

酒造りでは、米洗いや瓶詰までの全工程を杜氏・蔵人の目で確認しながら手造り製法を採用。1仕込みロットを700kgとした小ロット生産で、「火入れ1回」を基本としている。また、年間を通じて全体を低温に保つ空調設備を導入

ステンレス麹室・サーマルタンクにより温度管理を徹底することで三季醸造が可能になり、常に搾りたてを提供することができ。上槽は低圧で醗への負担を抑える槽搾り(ふなしほり)を採用。その後すぐに蔵人の目で確認しながら手作業で瓶詰めし、酸化を最小限に抑える



また、一番下の花びらを隠すと「六」に、下三枚の花びらを隠すと「山」に見えるというユ

べく低温(0〜3℃)で貯蔵。「昨秋から造りを開始して1年が経とうとしているが、ようやく安定してきた」と製造体制も充分に整えた。本社直売所内のモニターで中の様子を見ることができる。

〈新定番「杜来」について〉
新たな環境でスタートを切るにあたり、昨年9月、良質な水を原料に上記のこだわりを詰めた新ブランド「杜来」を上市。当初は青森県内を中心に展開していたが、今年2月頃から生産体制を整え、県外へ向けても地酒専門店等で展開を開始している。

これについて高坂氏は「300年の歴史を繋いできた杜氏の酒造りへのこだわり



造



わりを、これからの未来へ受け継いでいくこと、変化する時代に挑戦する(TRY)、という想いを、また、「来」の字には酒で人と人を繋ぐという意味も込めた」とこだわりの詰まった商品名について語る。

ラインアップは、「純米酒」「特別純米酒」「純米吟醸」「純米大吟醸」「青森テロワール酒」「純米大吟醸華想い」を展開し、フルーティな香りとしっかりした旨味、スッキリとした後味、爽やかな酸味など様々な楽しみ方ができるような個性豊かなバリエーションを揃えている。サイズは一般家庭の冷蔵庫に入ることを



想定し720mlで統一(一部を除く)。岩木山系の伏流水仕込みの同ブランドならではのラベルもポイントで、野うさぎやサンショウウオ、カモシカなど岩木山に生息する生き物が描かれている。鑑評会での入賞やKura Masterでのプラチナ賞(純米大吟醸華想い)、Milano Sake Challengeでのプラチナ賞ダブル受賞(純米吟醸杜来)青森テロワール酒杜来)などは、「手ごたえのある1年」と振り返る。

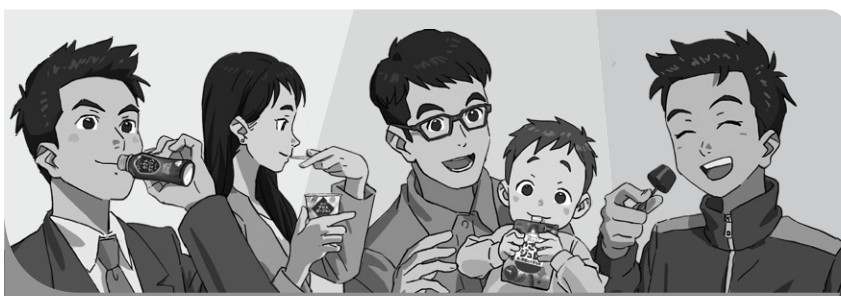
24年1月からは「超辛口」の出荷も開始。発売後すぐに完売するなど好評なスタートを切った。以降、フレッシュローテーションの特徴を活かした「氷温生原酒」や、限定品等も取り入れながら「上質な日本酒」を展開。「更なる知名度向上をめざしており、輸出にも注力する」(同氏)。

どんなに世の中が変わっても、
どんなにつながりの形が変わっても、
たいせつな人とかかわりの中で、
人は泣いて、笑って、人生を過ごしていきます。

こんな時代だからこそ、
私たちはなんのために商品を作っているのか、
ちゃんと考えてみようと思いました。

お客さまひとりひとりの人生の中で、
すこしでも多くの笑顔が生まれるように、
すこしでも豊かな時間が育まれるように、
私たちはこれからも皆さまの人生に寄り添う
商品をお届けしていきたいと思ひます。

「おいしいと健康を、どうぞ」
という気持ちを込めて。



おいしいと健康を、どうぞ。

